

考えると、もしこの困難を克服できれば誰も知らないことを一番最初に知ることができると考え、そこで諦めずに種々の工夫をこらすことで最終的には研究成果を報告することができました。

富山県はいまでもなく葉売りという独特の歴史がありますが、他にも立山連峰から富山湾へつながる独特の地形、特殊な生態を持ったホタルイカや雷鳥の生息地、神秘的な蜃気楼の発生地、落差日本一の滝である称名滝を有するなど多くの「ユニークさ」を持つ県だと思います。個人的にはこのユニークさが学術、スポーツ、芸術において著名な方々を多く輩出してきた理由の一つなのではないかなと思っています。今後も富山県が多くの素晴らしい方を育む場であり続けるのではないかと考えております。

学術研究

医薬分野「薬理学」

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科
組織機能修復学分野 准教授



宝田 剛志 氏

組織機能修復／創薬応用を指向した
間葉系幹細胞の基礎的研究

この度は、歴史ある「とやま賞」を受賞させていただき、誠にありがとうございます

います。財団および県の関係各位の方々に深く御礼申し上げます。私は1979年から1998年の大学入学に至るまでの18年間を、富山県富山市浜黒崎という場所でも過ごしました。小さい頃は何をやっても長く続かず（スイミングスクールから始まり、剣道、サッカー、バスケットボール、ソフトボールなど）、夢中になるものといえばテレビゲームであつた私が、今は大学医学部での研究室を主宰させていただく機会を得て、生まれ育つた富山県から大変名誉な賞を頂くなど、当時は想像もできなかったわけで、宝田剛志少年がこれを知つたとしたら、人違いではないかと思うに違いありません。今に至る経緯には、これまでに出会つた多くの先生方のご指導、共に研究に励んだ研究室の方々のご協力のおかげであることは間違いありません。ただ、現在に至る原点を自分自身の中に見出すとすれば、それは、「純粋な医学へ知的好奇心」だと思つたのです。何か理由は分からないが、ヒトの体の仕組みが気になる。どうして、手を動かさそうと思つたら、思い通りに動いてしまうのか。そのような湧き上がる疑問に引つ張られるかのように大学に進学し、図書館で本を読み、研究室に配属され、実際に自分で研究を実施する。思えば、この気持ちの内面に留めるのではなく、外に発散し行動に移したことで、私の周りの多くの方々が応援・協

力してくれて、今の自分を作ってくれたのだと感じています。年齢を重ねるにつれて、いろいろな不安やリスクなどを考えるようになりましたが、「思いを行動に移す」、富山で培つたこの精神は忘れないようにしていきたいと感じています。最後に、この富山の地で育んでくれた家族と、現在の自分を支えてくれる妻・娘にこの場を借りて感謝いたします。

学術研究

理工分野「植物生化学」

富山県立大学工学部生物工学科 講師



野村 泰治 氏

有用植物二次代謝産物の生合成機構の生化学的
解明とバイオプロセスによる物質生産への応用

このたびは栄えある「とやま賞」をいただき、誠にありがとうございます。関係者の皆様、研究を支えていただいた先生方、学生諸子、そして日々の生活に潤いを与えてくれている家族に心より感謝いたします。

私は島根県の出身であり、7年ほど前に縁あつて富山県立大学の教員として赴任してきました。私は大学時代から一貫して、植物が産生する「二次代謝産物」とよばれる低分子化合物を対象として研

究を行ってきました。植物二次代謝産物は、医薬薬、化粧品、香料、染料、食品等の様々な分野で利用されており、我々の生活には無くてはならないものです。私の研究は、そういった有用物質が植物体内で合成される過程を特に酵素の面から明らかにするとともに、その知見を新たな物質生産法の開発に応用するというものです。特に、富山県の県花であるチューリップに含まれる有用物質を研究対象とし、半世紀近くにわたつて未解明となつていた物質変換系に関わる酵素を発見するとともに、同酵素を利用して、入手が困難な微量生物活性物質を合成するプロセスの開発に成功しました。それと並行して、遺伝子組換え植物培養細胞を用いた物質生産効率を飛躍的に向上させる汎用性の高い基盤技術を新たに開発することにも成功しました。

私は県立大学への赴任に際して、それまでに行つていた研究テーマに区切りを付け、新たな研究テーマとともにスタートを切りました。今回の受賞研究はすべて県立大学で行われたものです。ゼロからスタートし、心血を注いできた研究成果が「とやま賞」という形で結実したことは、私にとっては望外の喜びです。

出身地の島根県と同じく自然豊かな富山県で生活を送れることは、私にとっては公私両面で幸運でした。生活環境が良いのはもちろんですが、研究面でも都会